

激動の幕末・明治維新史料

第10回 講義 長州征伐 (中村先生)

2022年9月6日

夏休みを挟んで2か月ぶりの授業。遅れているが、「池田屋事件」前夜の振返りから開始。
1863年「八月十八日の政変」から翌年6月の「池田屋事件」まで、長州動向を中心に学んだ。

<振返りと講義の内容>

- ・参預会議(公家と武家合同の国事審議制度)が行われ始めた。明治維新以降の日本国の原初的な形態と考えられるが、これらにより、「政治の中心は江戸から京都」に移っている。
- ・参預会議では、「八月十八日の政変」に続いて、長州の征討について、議論。
征討の前に、毛利慶親父子を大阪(または京都)に呼んで申し開きの場を設けることも議論。
- ・一方、長州内でも、幕府に対する武装蜂起する案と、慎重な行動する案で、対立。
- ・更に、攘夷を唱える浪士たちに対して、長州が金銭や武器を提供することにより、陰から武装蜂起を支援するなど、京都は、暴発直前の不穏な空気に包まれていた。
- ・この状況に対し、京都守護職松平容保は、新選組やその他諸侯に命じて、京都市中警備強化。
- ・文久4年(1864年)6月5日、新選組が薪炭商の枅屋喜右衛門(古高俊太郎)を逮捕。
拷問により長州が「風の強い日に御所に火を放ち、天子を長州へ連れ去る」ことを画策していることを把握し、池田屋にて新選組が浪士と交戦する「池田屋事件」が起こった。
- ・古高俊太郎とは、有栖川宮出身の毘沙門堂門跡の家来であり、また毛利家の遠縁にあたるなど、単なる薪炭商ではなく、長州から信頼を得ていたと考えられる。
- ・「池田屋事件」とは、交戦があった6月5日だけでなく、10日まで続く長州屋敷職員や浪士などの殺害、逮捕を含めて考えたほうが良い。

<中村先生からの情報、アドバイス>

- ・池田屋事件の前後については、中村先生の専門中の専門。詳しく講義いただいた。
- ・10月、11月に京都文化博物館にて、新選組展があります。特に10月15日(土)には、中村先生の講演会「近藤勇の二人の師一清河八郎・芹沢鴨」があります。



古高俊太郎の住居の写真



古高俊太郎の家の地図
四条小橋西入ル 現在は喫茶店